

椿品種群

Cultivars of *Camellia japonica* and its related species

日本では椿の園芸化が進み、多種多様な品種群がつくられてきた。東京大学では古くからツバキ属の研究が進められてきたこともあり、古典的な品種群に加え、近隣地域の近縁種のコレクションも保有している。例えばここに植えられている「菊更紗」は『百花椿名よせ色付』（1722年）にも記録の残る古い品種。「松笠」も『花壇地錦抄』（1695年）に記録が見られる。八重咲きといっても花卉の並び方や形状が大きく異なり、各品種群の個性が認められる。こうした園芸品種の多くはヤブツバキの突然変異体であるが、別の解説に示すように、侘助など他種との間で生じた異種交配により生まれた園芸系統もある。南西諸島には香りが強いことで知られる小輪のヒメサザンカが自生し、ヤブツバキとの間で交配されて、香りのある小輪多花性の品種群が作出されている。また近隣諸国にはツバキ属の近縁種が多数知られており、茶の材料のチャもその一つである。



菊更紗



松笠